

性交で闘技する女学院



フリーダムプロフェット



私立翔王女学院
名家の娘達が集まる
この学舎では

ついに
来たわ
この時が……

日々
とある闘いが
繰り広げられていた

じう
三条慈雨

今日こそ貴方を倒し
デュエルクイーンに
返り咲く

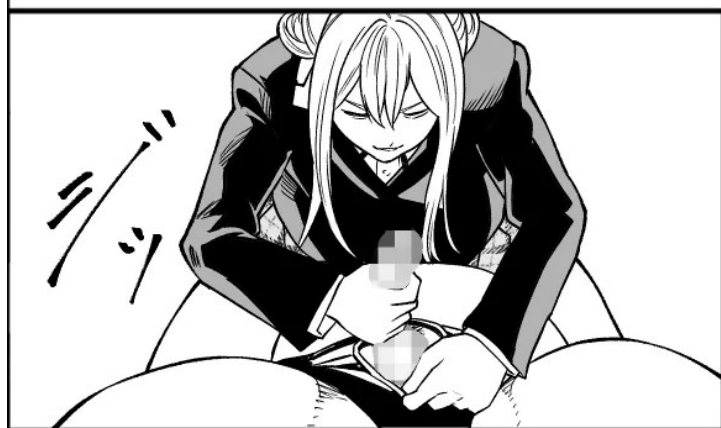
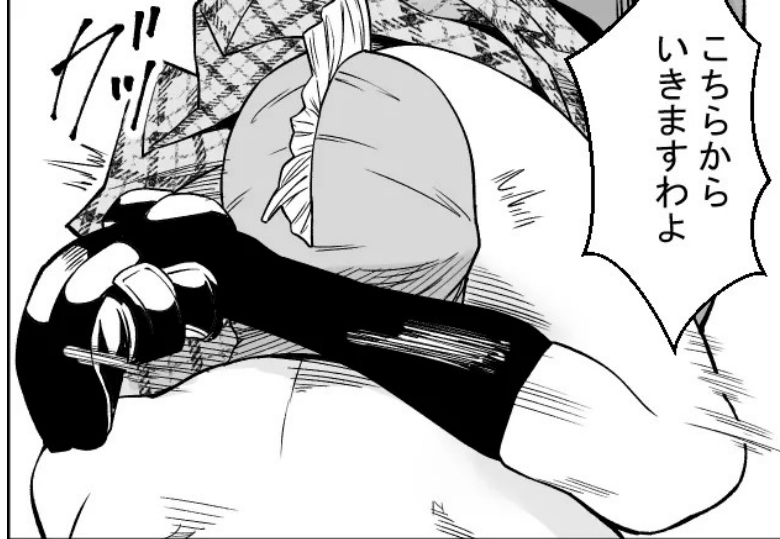
三条さん
貴方も懲りないものね

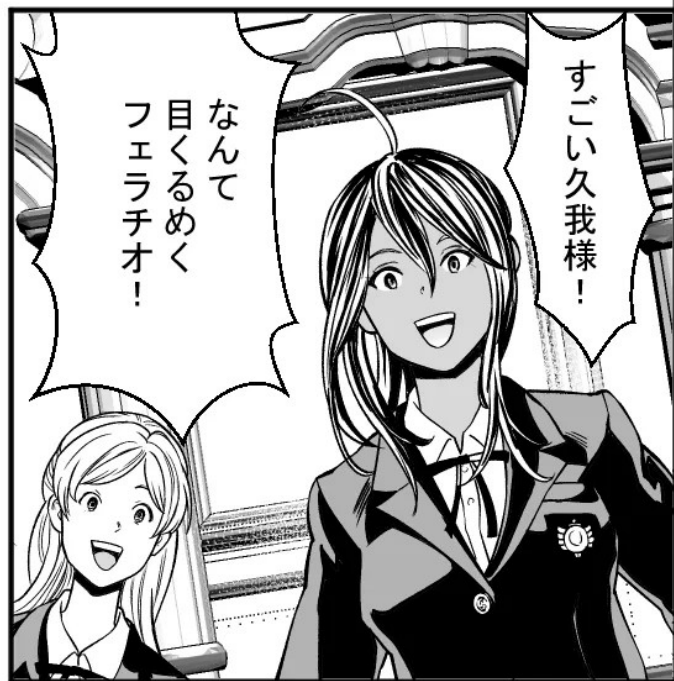
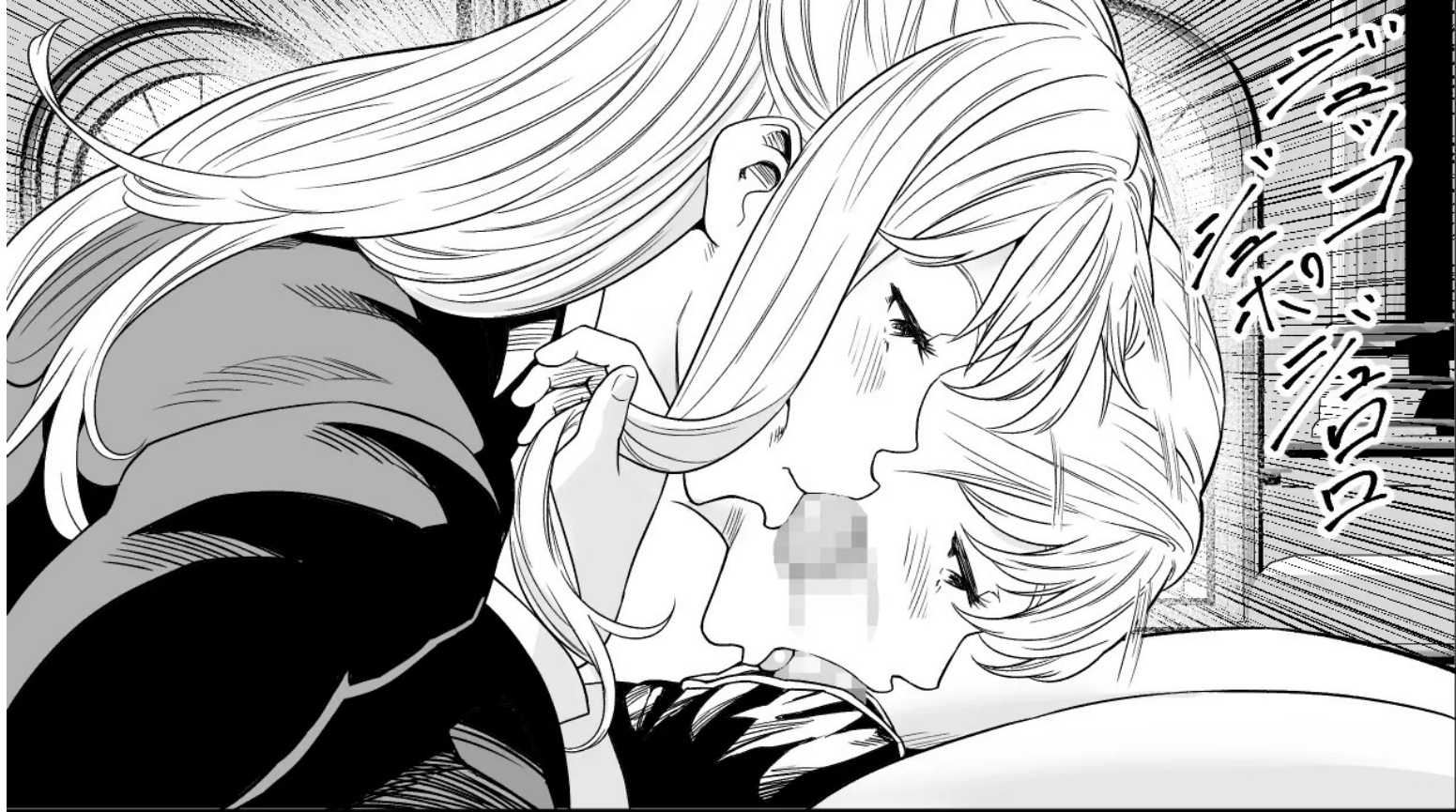
久我千尋

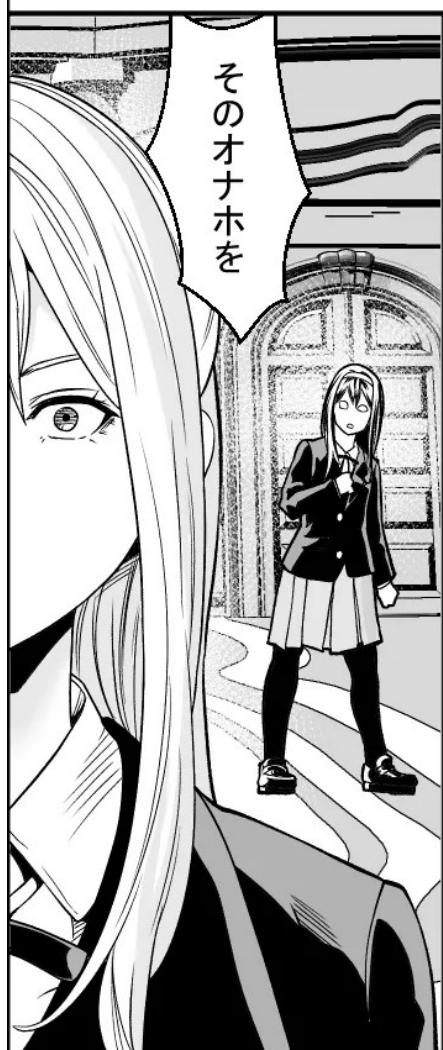
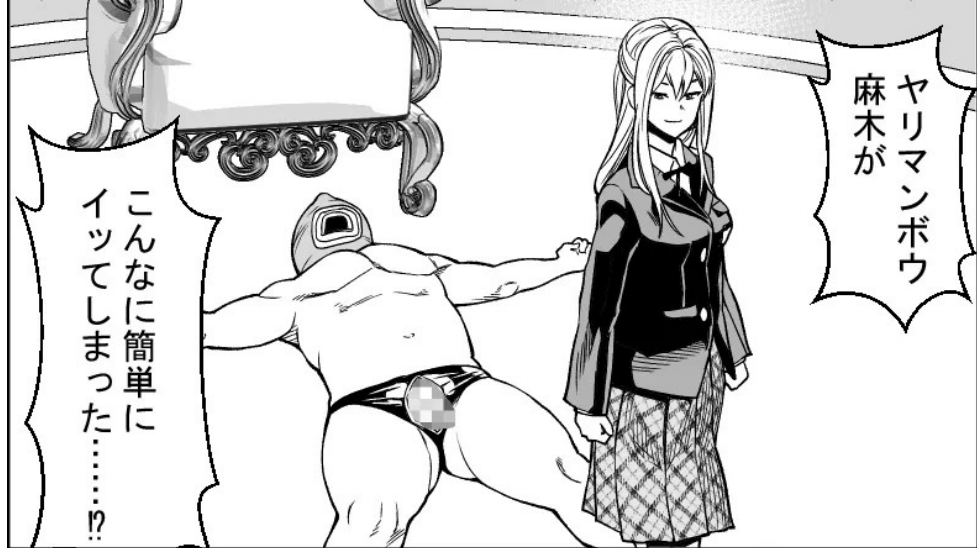
何度やったら
私には勝てないと
悟るのかしら？

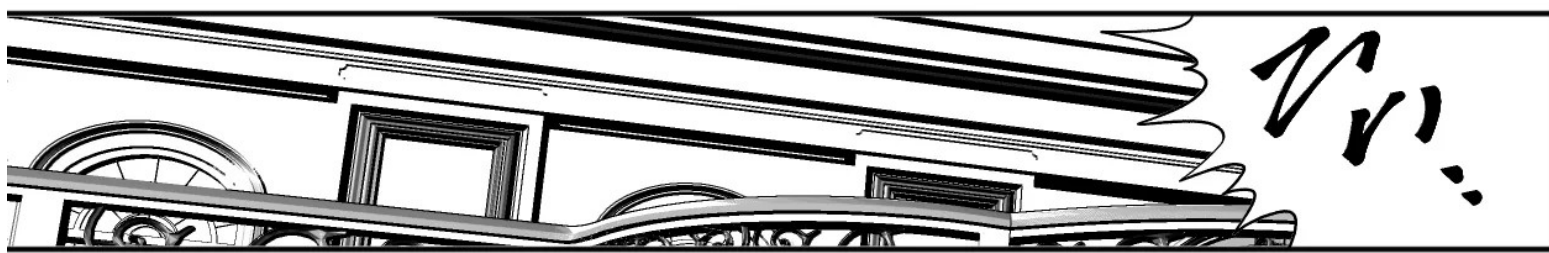
その余裕も
今だけよ！



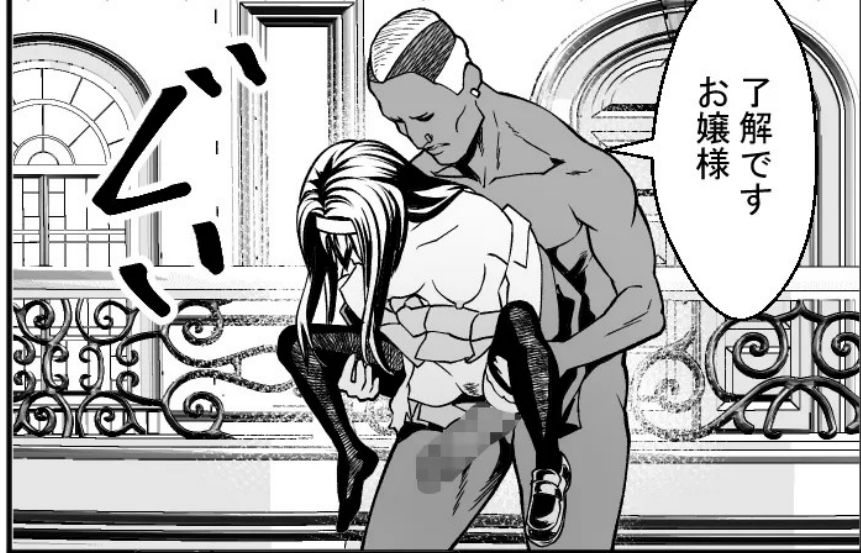


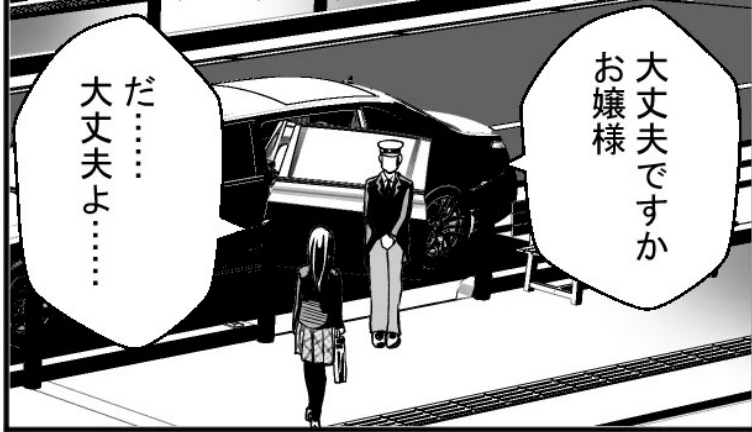










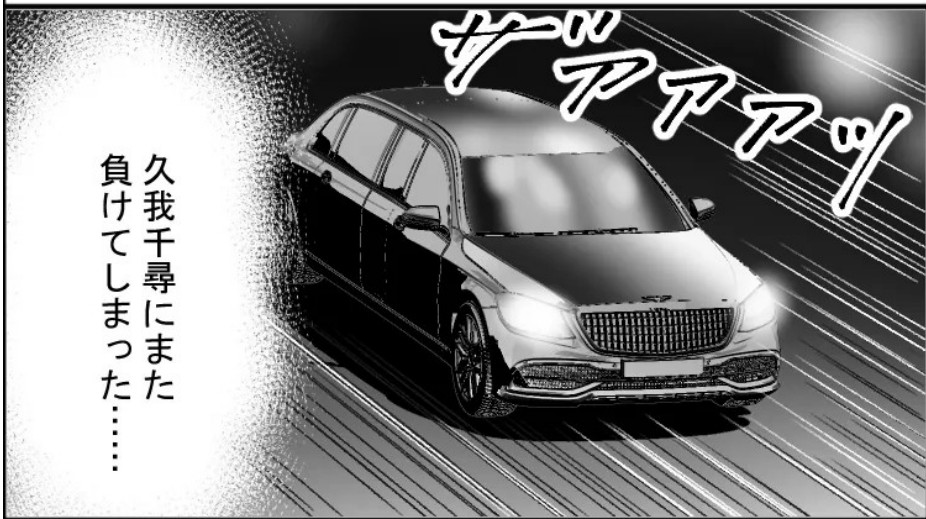


だ……
大丈夫よ……

大丈夫ですか
お嬢様



膣と肛門
繋がるかと
思った……



久我千尋にまた
負けてしまった……



でも……
そんな変態なんて……



AV男優ですら
ダメだった

今まで何度
ナイトを挑ませても
彼女には勝てない



もはや常人ではない
益荒男

変態が必要なのよ
それも

呆れるほどの
変態が……

ビルの屋上でオナニー
している男が!?

ズズズズズズ

変態いたー!

車を止めて!

ん!?

安心して
画像はすぐに返すわ

私の言う事を
聞いてくれれば……ね

しっかり
画像を収めたわよ
変態さん

フフフフ……



話が早くて
助かるわ……



俺は脅されている……
というわけか

要件を言え



そのイカれた
ゲームのナイトに

俺を雇いたい
いうわけだな

そうよ



ふむ……

その【デュエル】という
生徒と生徒が
選んだ騎士がペアとなり

セックスで
イかせあう



自己紹介が
まだだったな
俺の名は
茅ヶ崎修二郎

プロヴィデンス
キャピタルバンクの
資金調達及び
M&A 仲介本部長だ！



いいだろう
三条慈雨
その話し飲もう……

脅されて
仕方なく
というのもあるが

「闘い」と聞くと
俺の血が騒ぐのも
事実……



翌日

誰か私と
デュエルなさい！

あらあら

負け犬ブサイク
尻穴掘られ大噴水女の
三条さんじゃないの

昨日さんざん
懲りたかと思
ったらもう
闘技に挑もうというの？

頭も下半身も
学習能力がない
人ねえ

しかも
そのハゲた
しょぼくれた
リーマンっぽい人が
今度のナイトなの？！

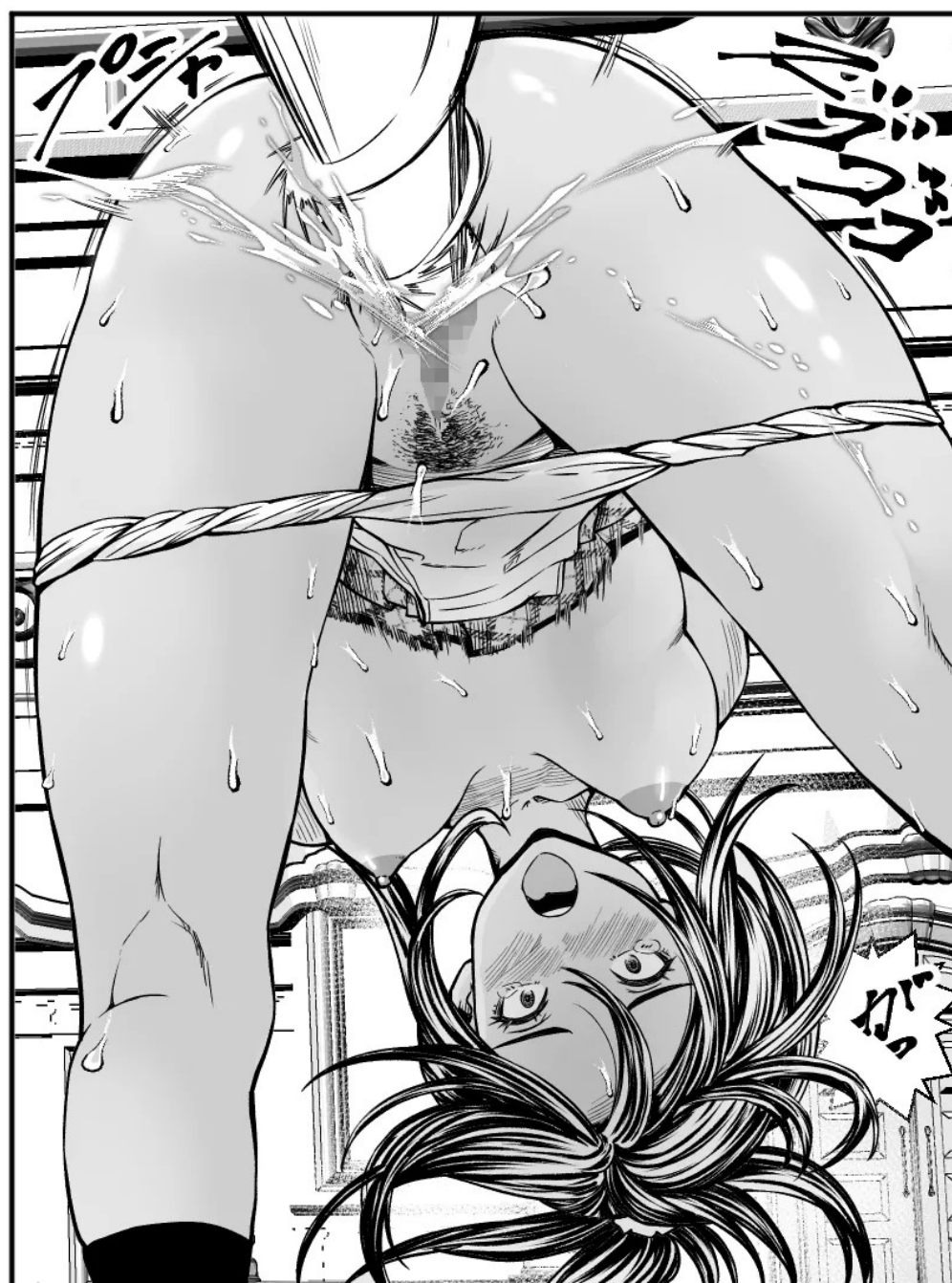
小竹向原亜佑美
貴方で我慢してあげる

久我千尋も
金魚のフンを倒されたなら
私の再始動を
理解するはず……！

我慢だと？

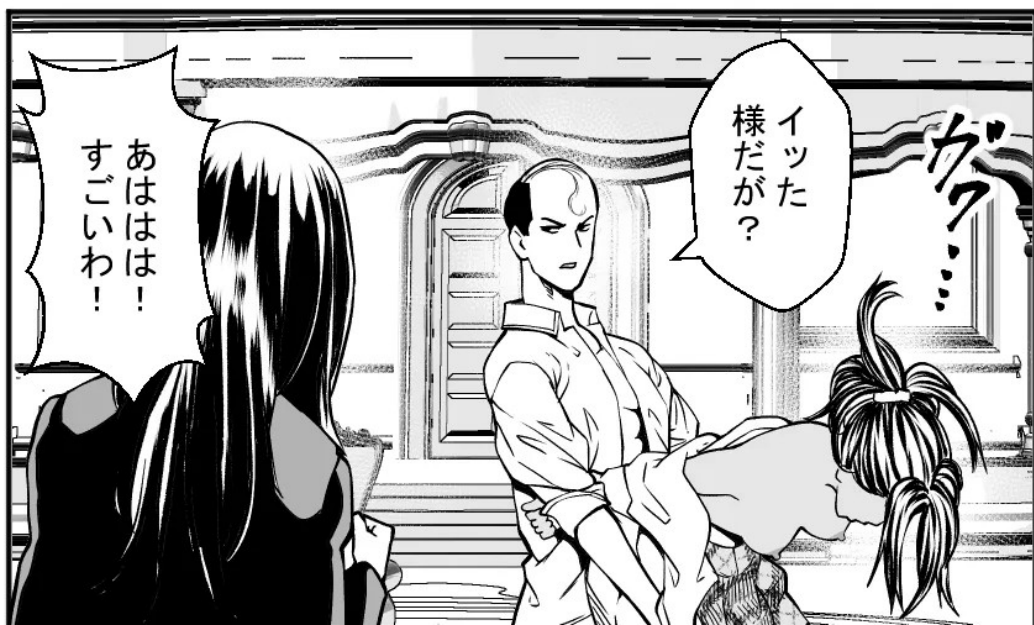
いいわよ
相手になってやる







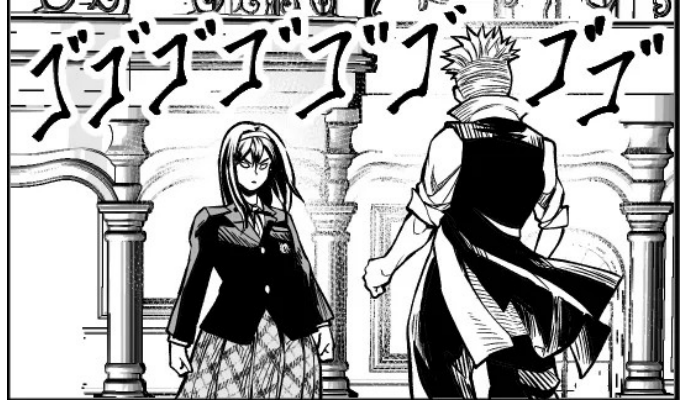
おのれ
三条慈雨！
今度はこっちの番だ

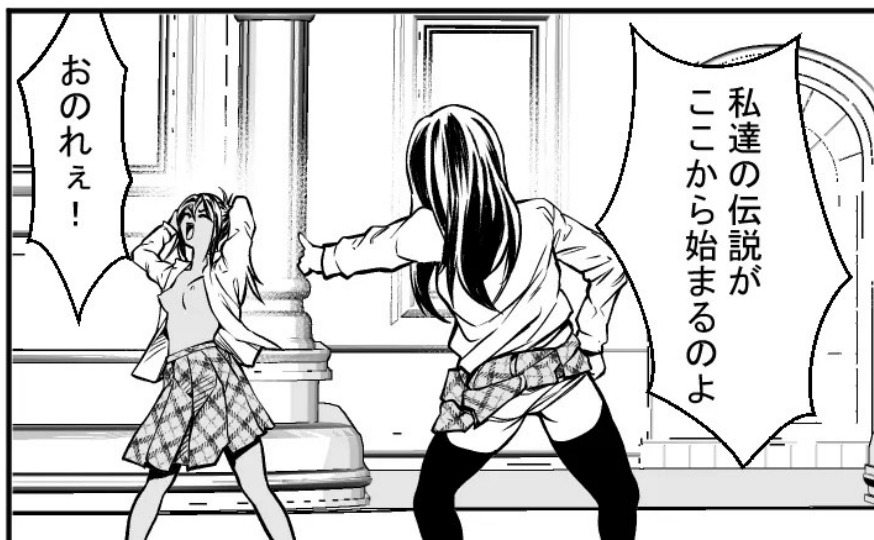
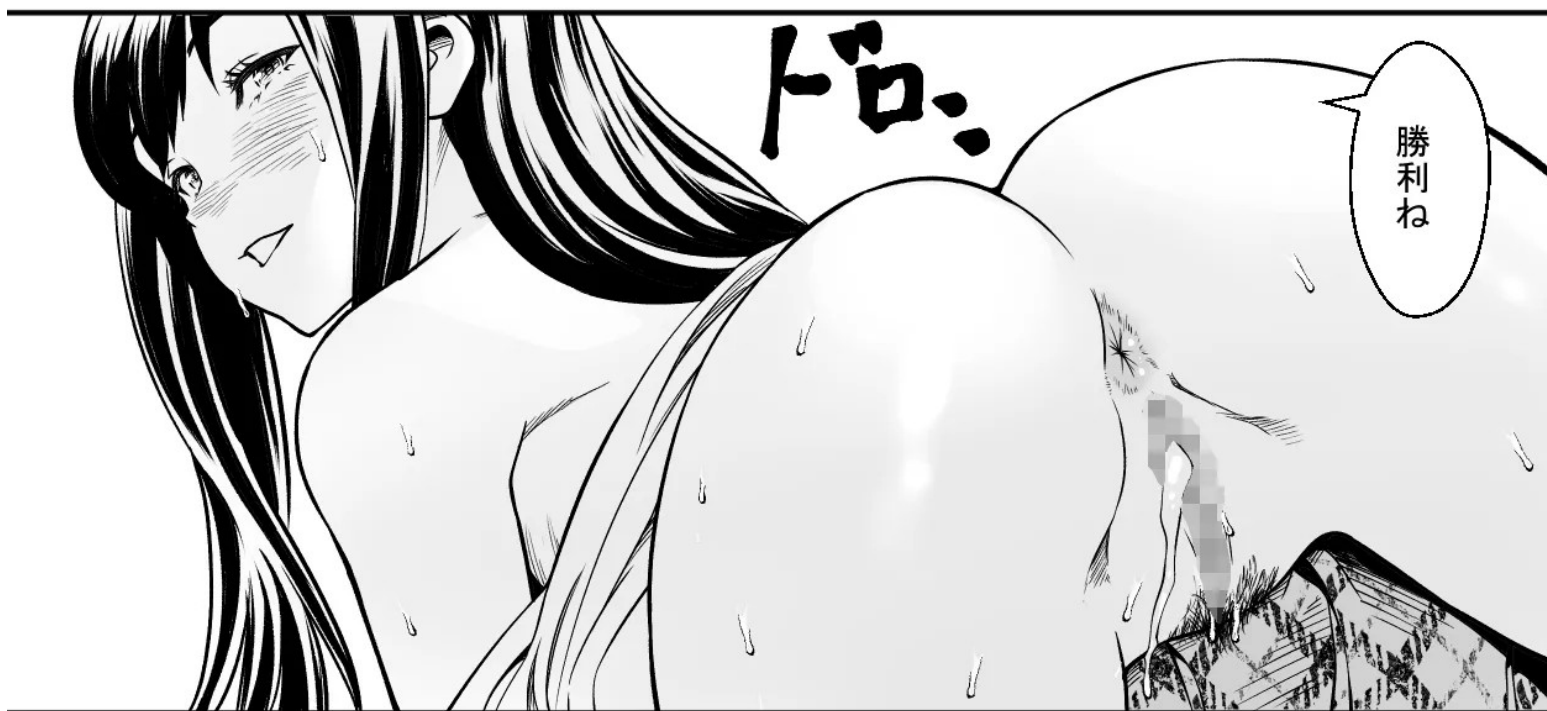
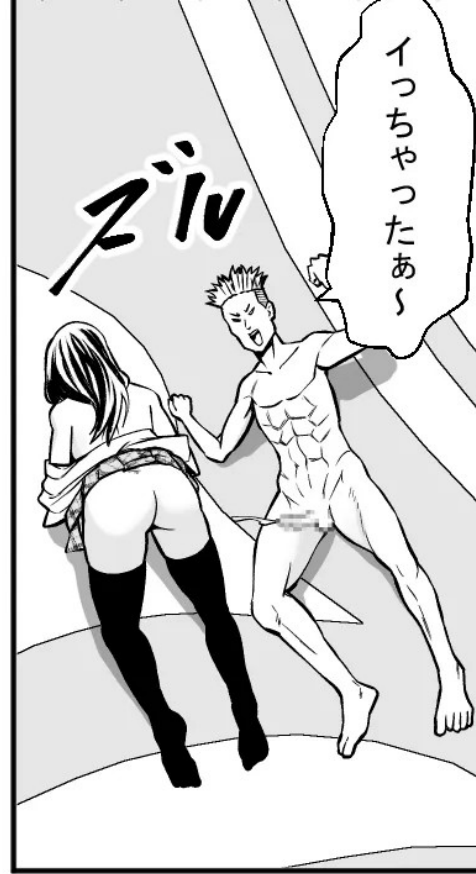


あははは！
すごいわ！

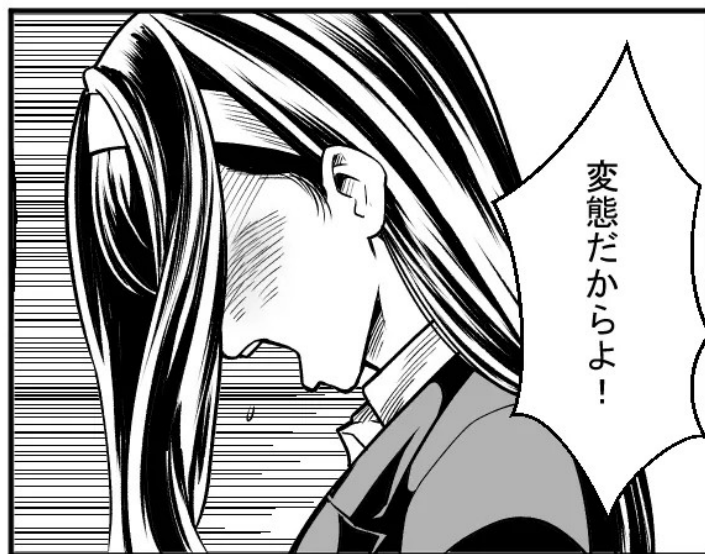
イッた
様だが？

ガッ...









この学校は
そういう子たちばかりが
集められている

名門家庭に生まれ
名門家庭には相応しくない
異常な性欲や変態的趣向を
もった娘たちばかり

捨てられた……
そう思った

でもこの学校には
デュエルがあった……

子供の頃から
好きだった
エッチな事で

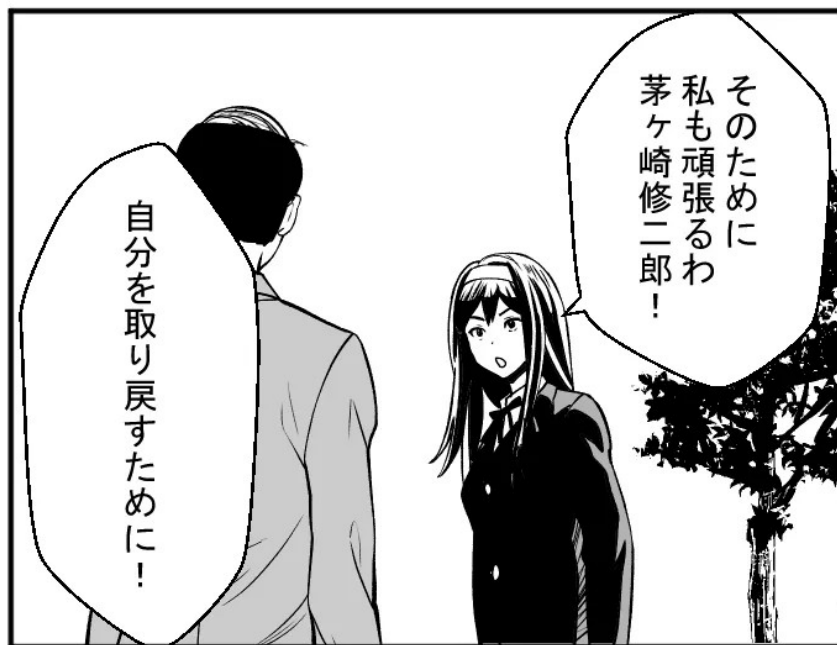
思う存分
自分らしく
戦えた……

そして
その才能は確かにあって
私はデュエルクイーンに
なった……

でも久我千尋
あの女が来てから
全てが変わった

彼女はどんな責めにも
眉根一つ動かさず
華麗な技で
私が用意したナイトを粉碎してきた

そして彼女のナイト
性神デIRON
その恐るべき肉棒で
私は全ての穴を貫かれた……





ええ！



よし特訓だ！

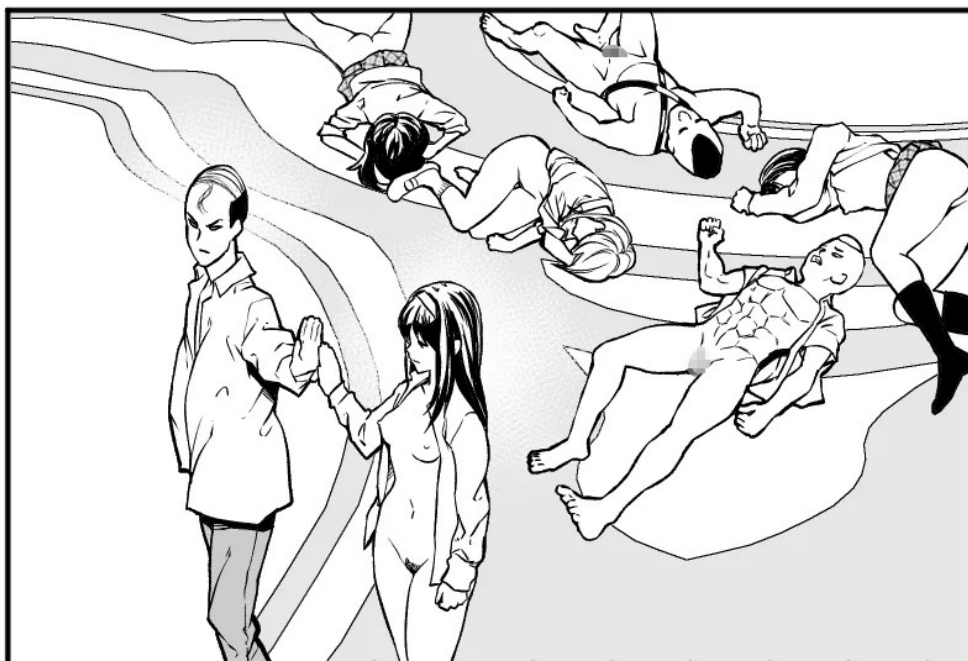
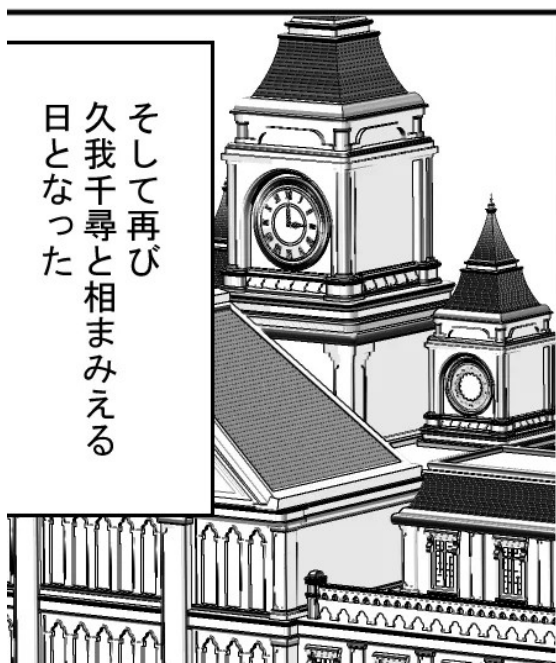
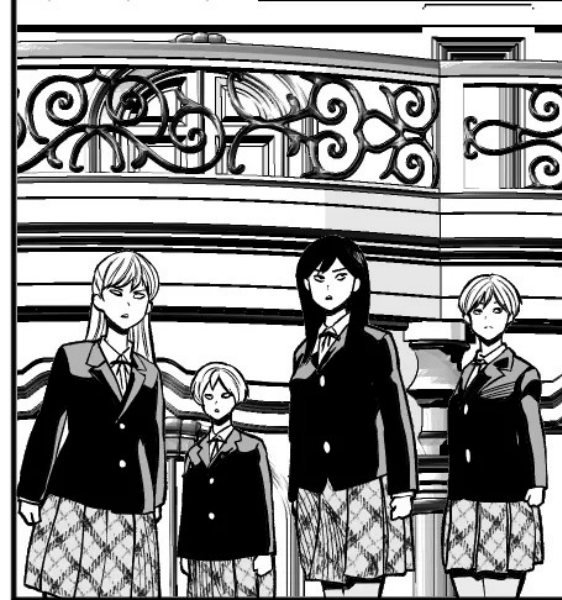
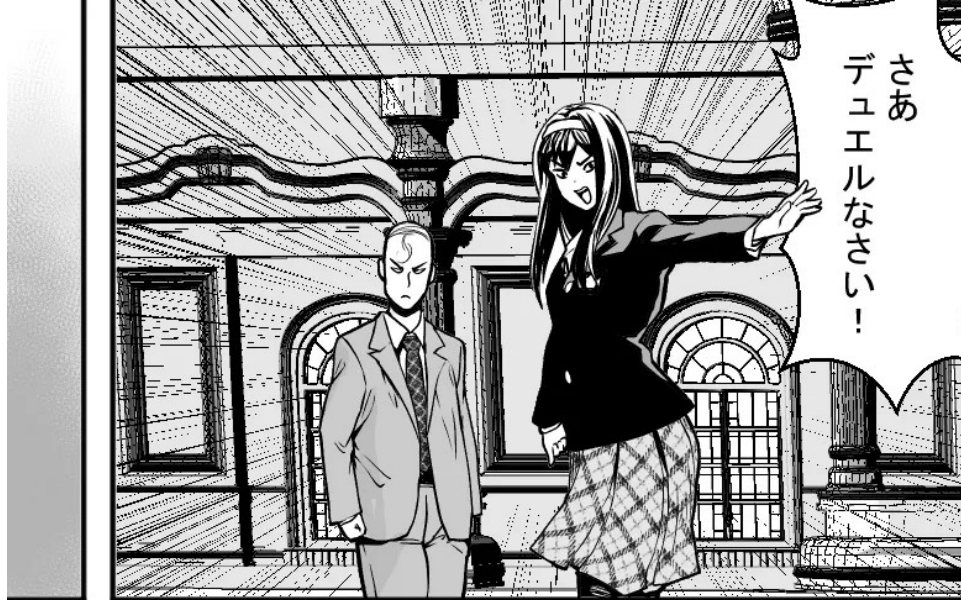


私は

絶対に
勝つ！



鋼の膣を
手に入れるんだ！





今日で最期よ
勝っても負けても
異存はない



もういい加減
貴方の相手にも
飽きましてよ
三条慈雨……



よろしい
ではこうしましょう

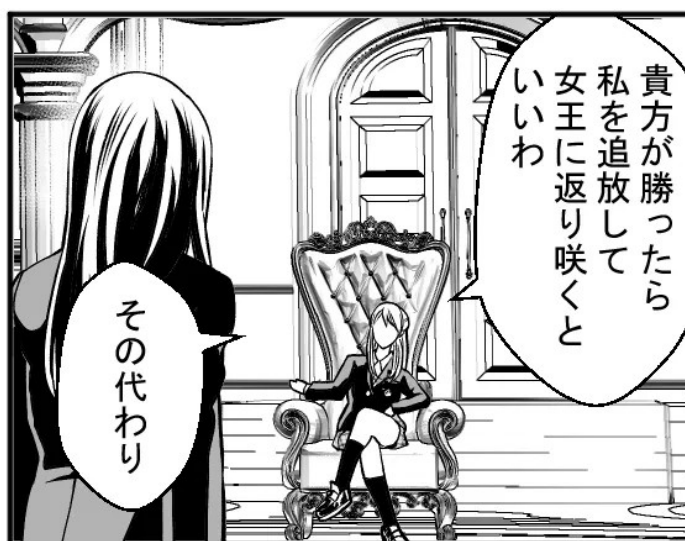
今日 負けた方は
勝った方の 言う事を
なんでも聞く



私が勝ったら
貴方を破壊し尽くす

徹底的に
甚振って

尊厳も
なにもかも
踏みにじって
あげる



貴方が勝ったら
私を追放して
女王に返り咲くと
いいわ

その代わり



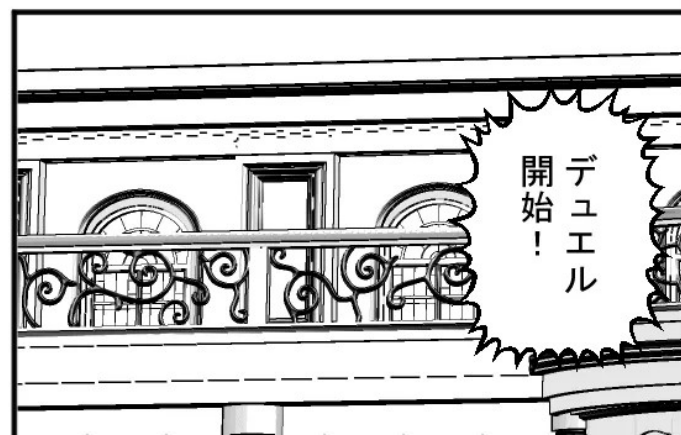
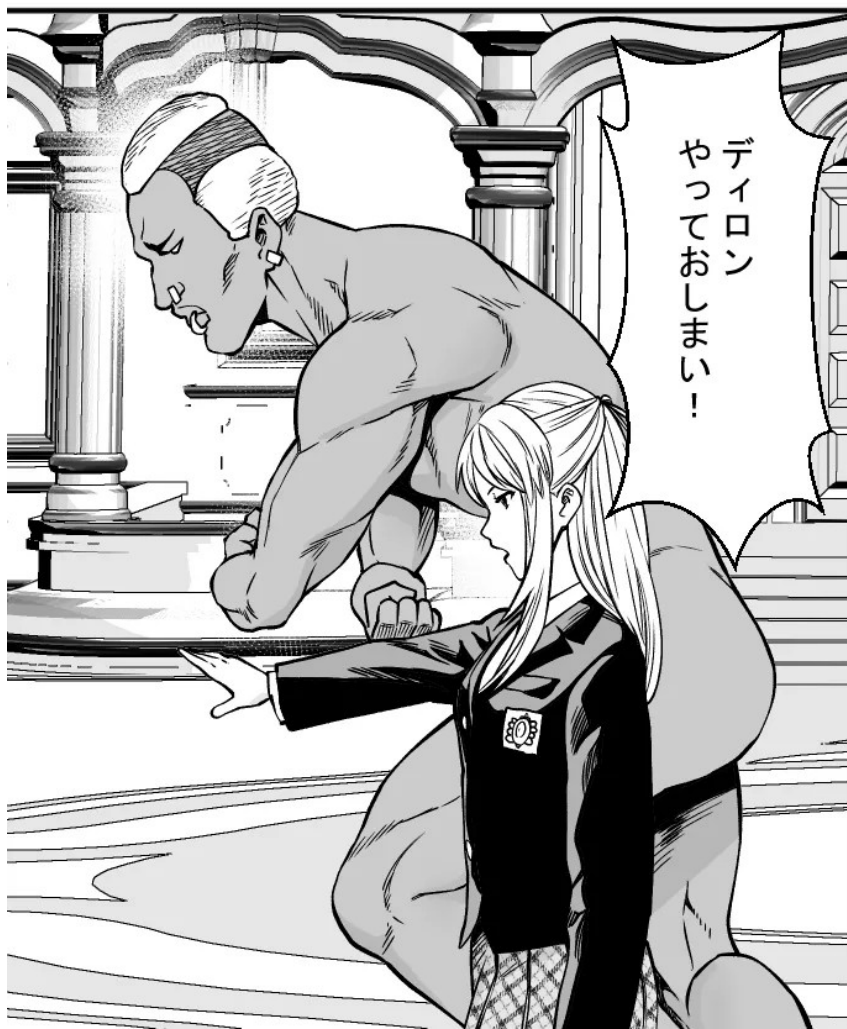
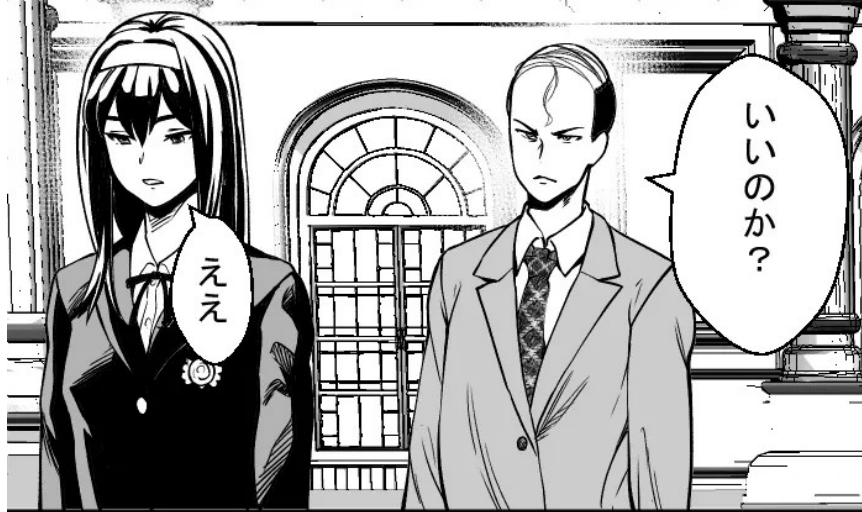
……さて
どちらのナイトが
先に？

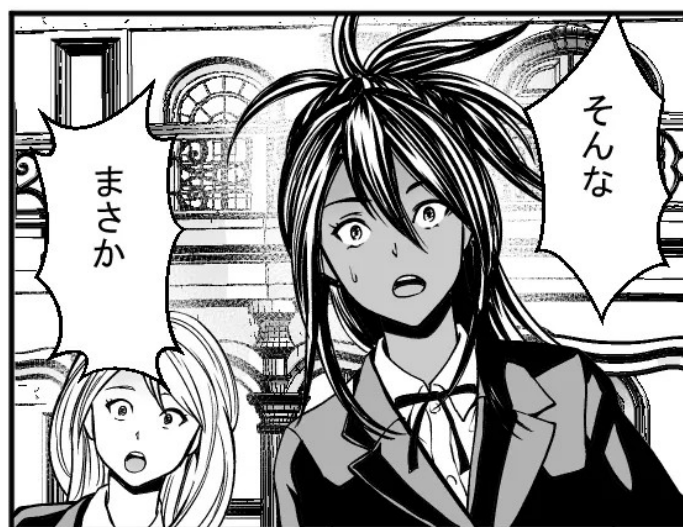
フッフ
決まりね

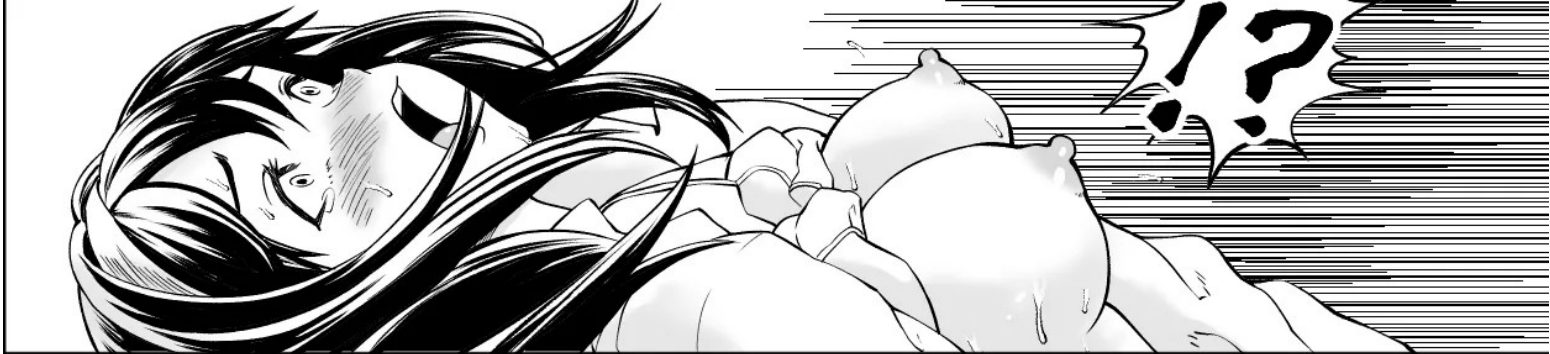


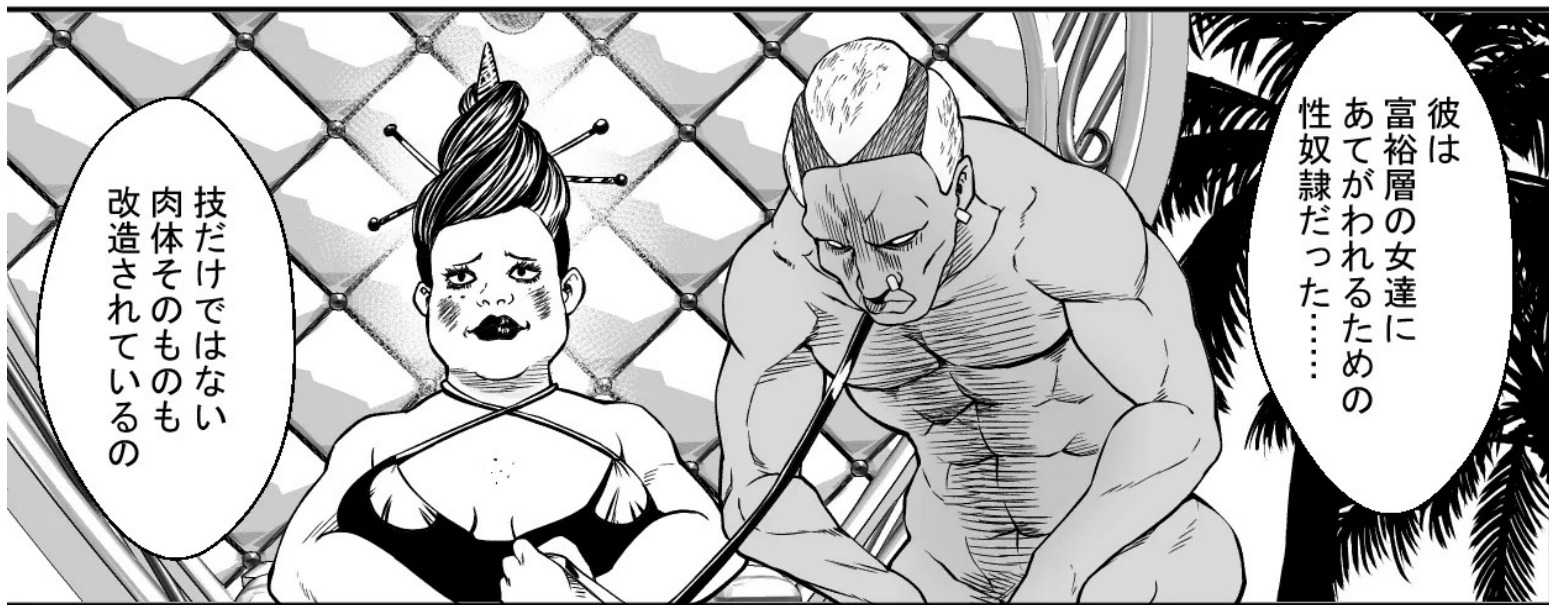
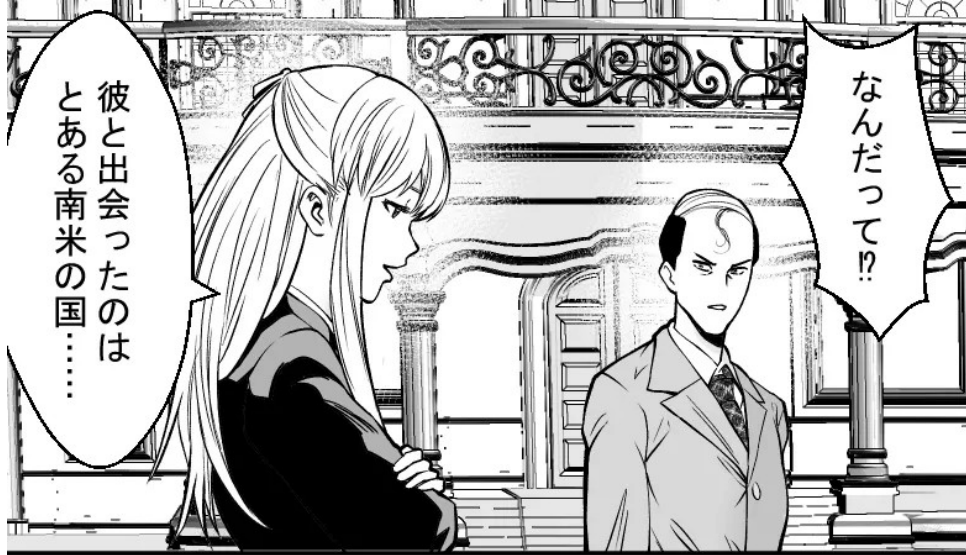
いいわ
受けて立つ

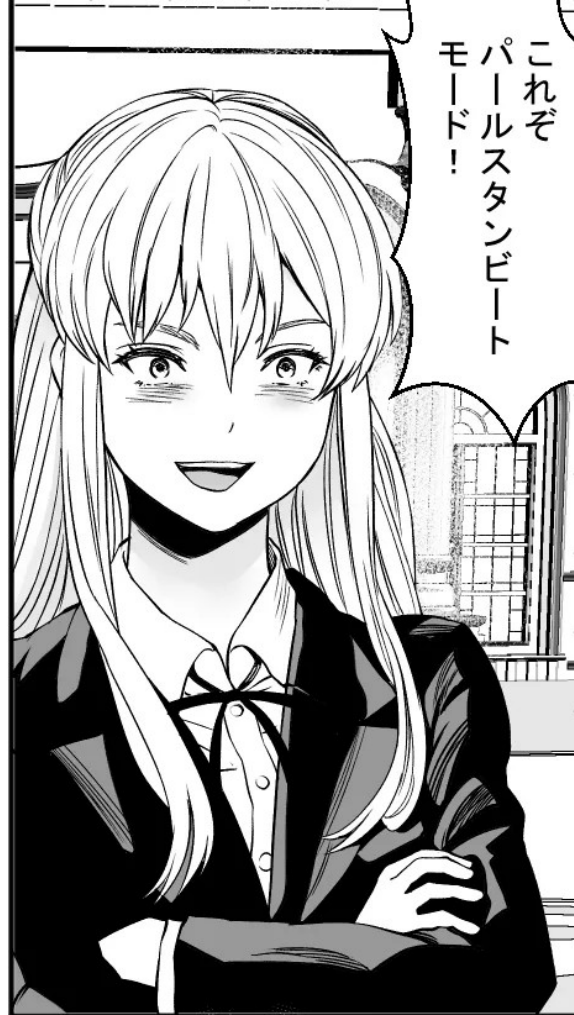


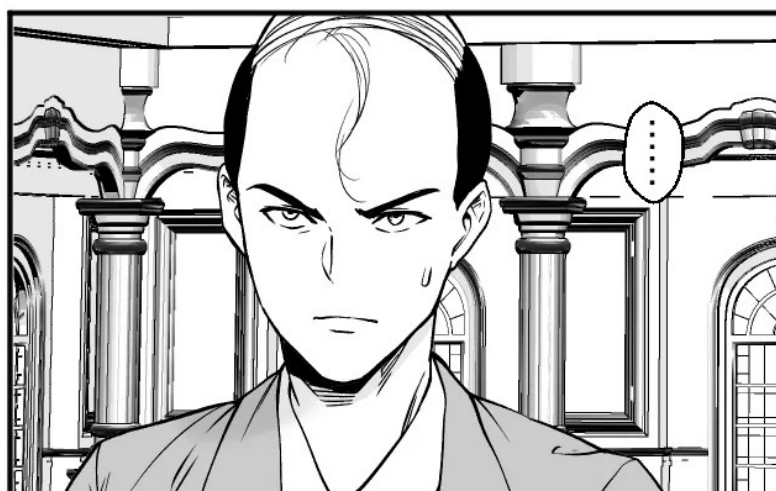
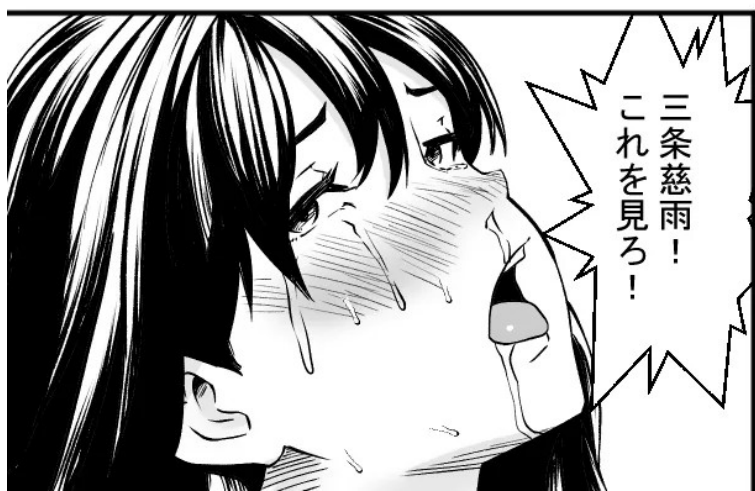
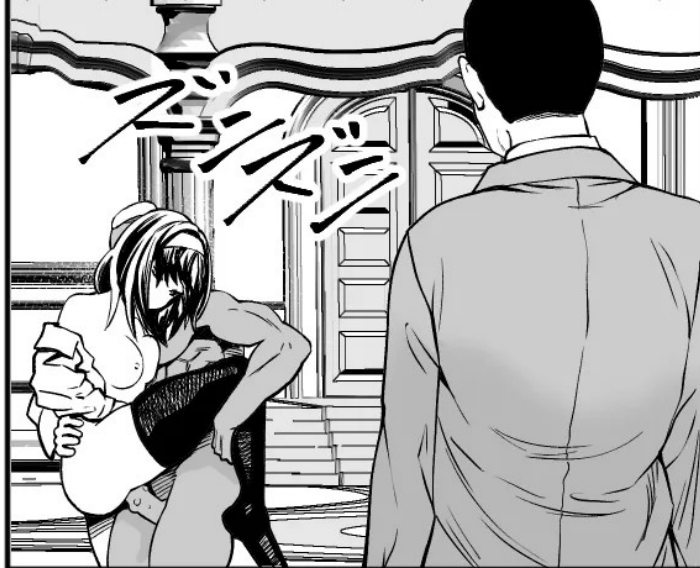


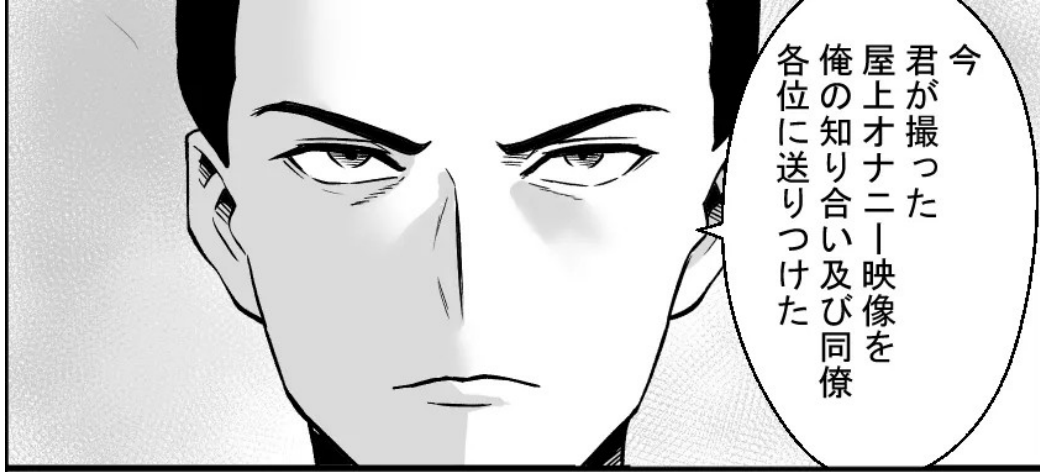


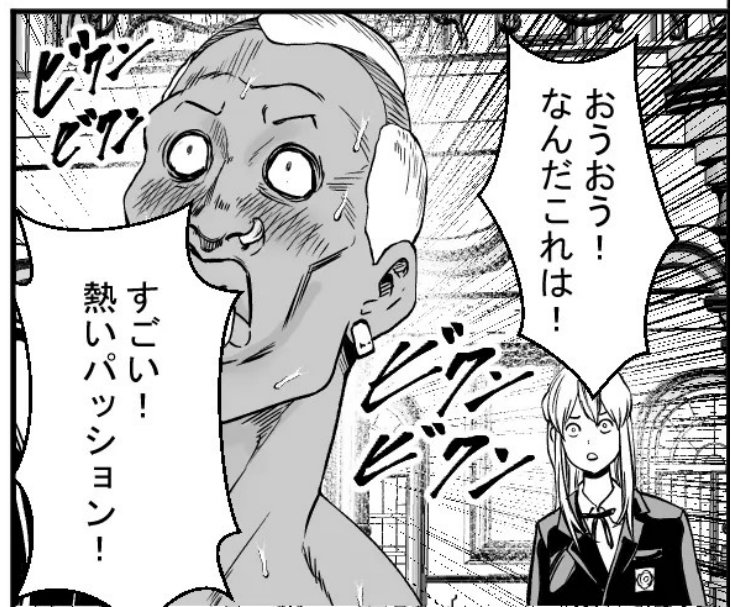
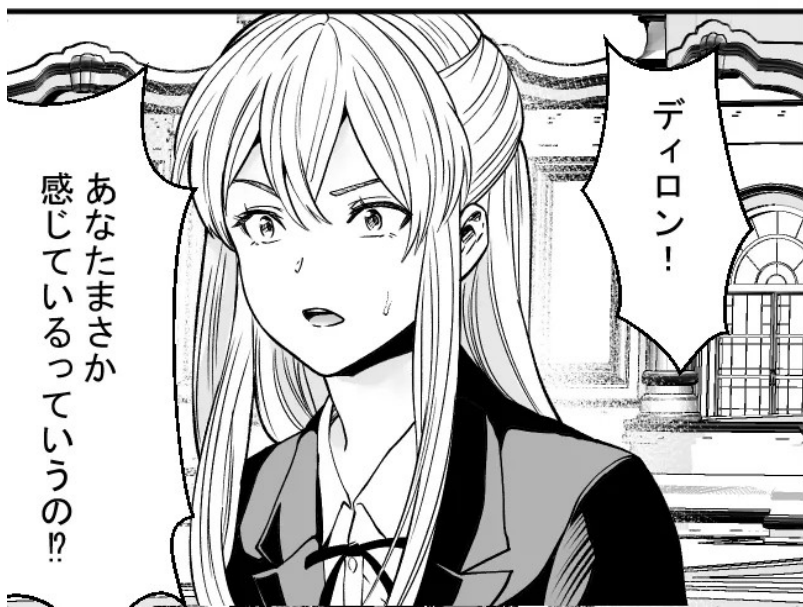
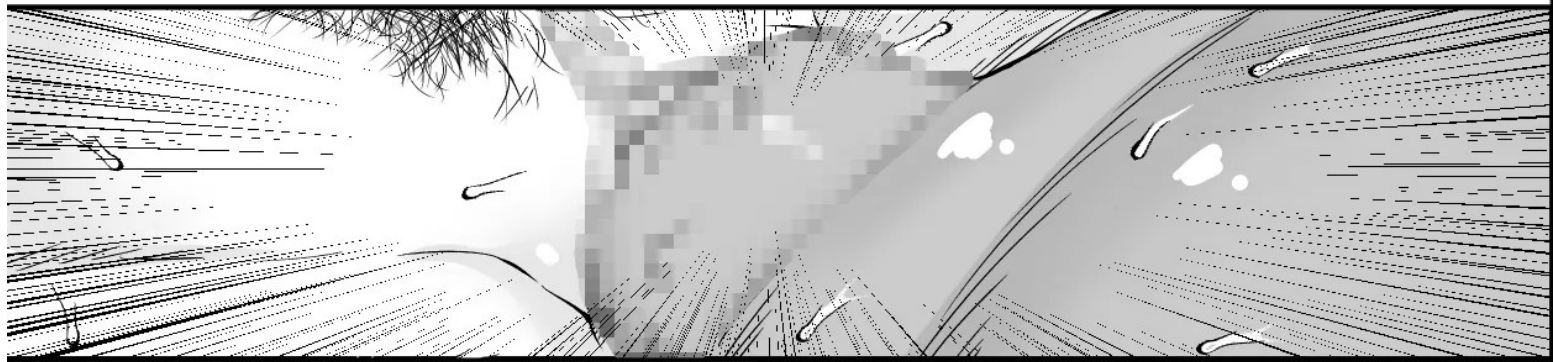




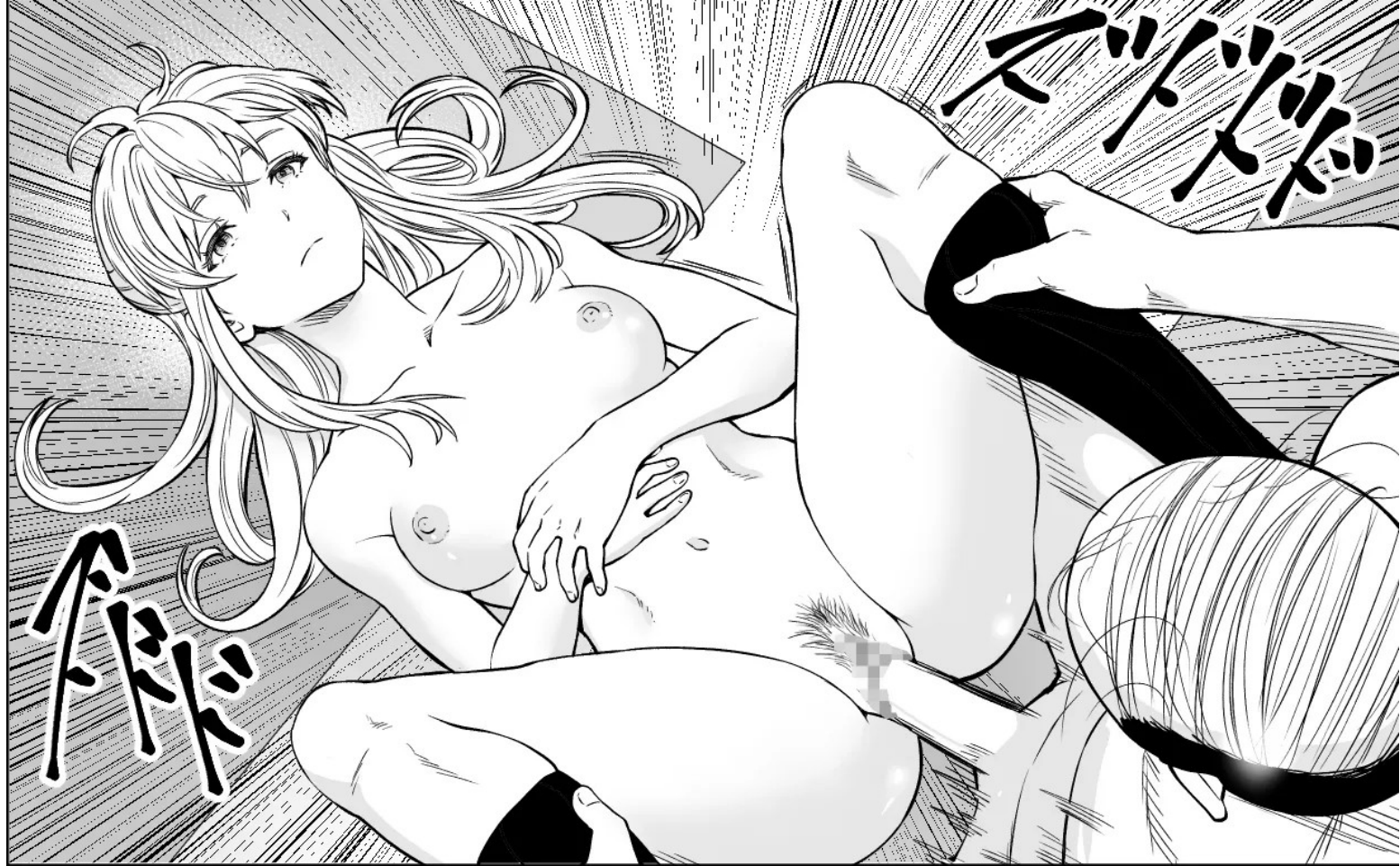












私の家久我家は
旧華族の 由緒正しき
一族

私は
その宗家の
一人娘として

家に相応しい
婿を取るためだけに
育てられてきた

ひたすらに
清く美しく
あれと……

そう 上辺だけを
徹底して取り繕う
様に……

なあ
貴明

そう思う
だろう？

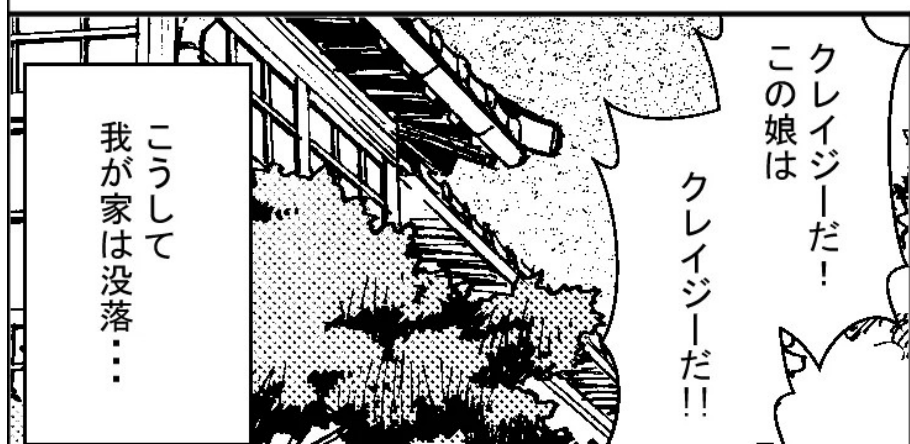
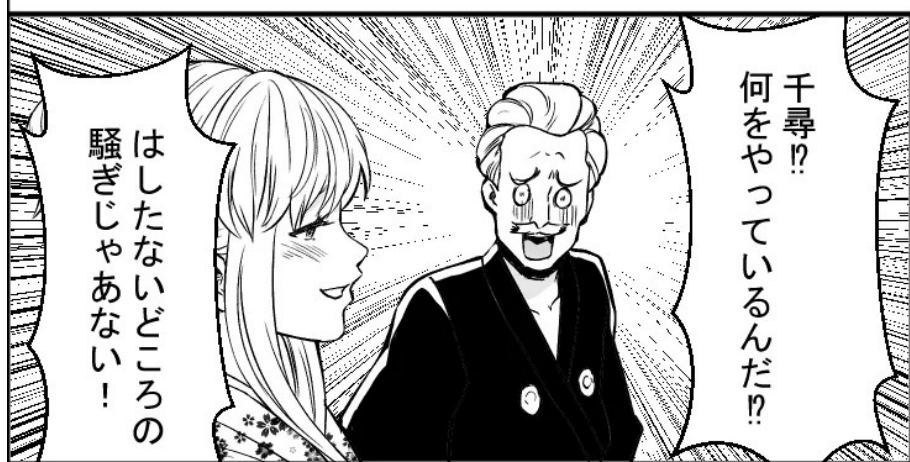
はい
お父様

千尋さん
なにか趣味は
ありますか？

あれは
許嫁の家に
顔合わせを
した時だった

わたくしの
趣味で御座いますか？

千尋さん
聞きしに勝る
淑女ぶり



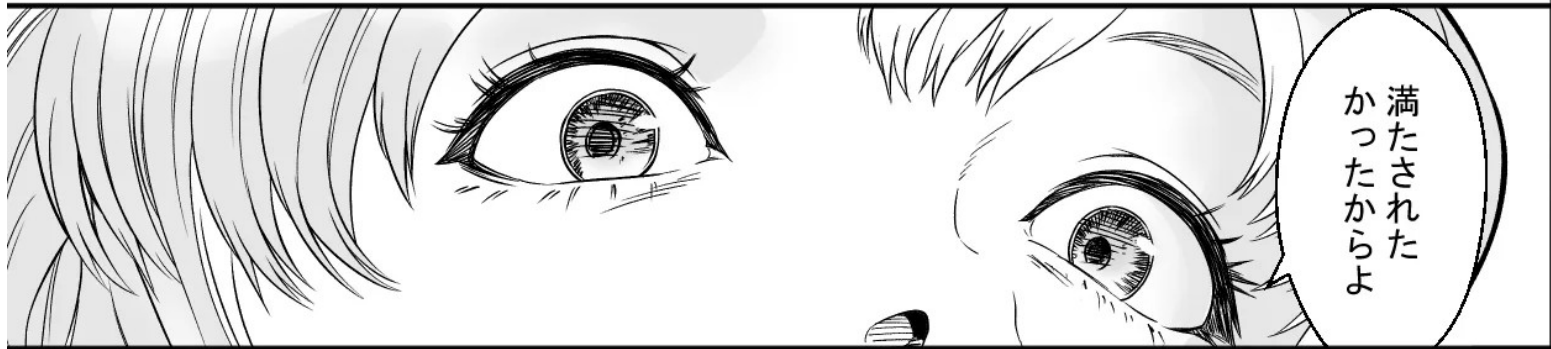


何故
自分の名誉を

家を破壊したと
思う？



わたくしはこの学園に
打ち捨てられた



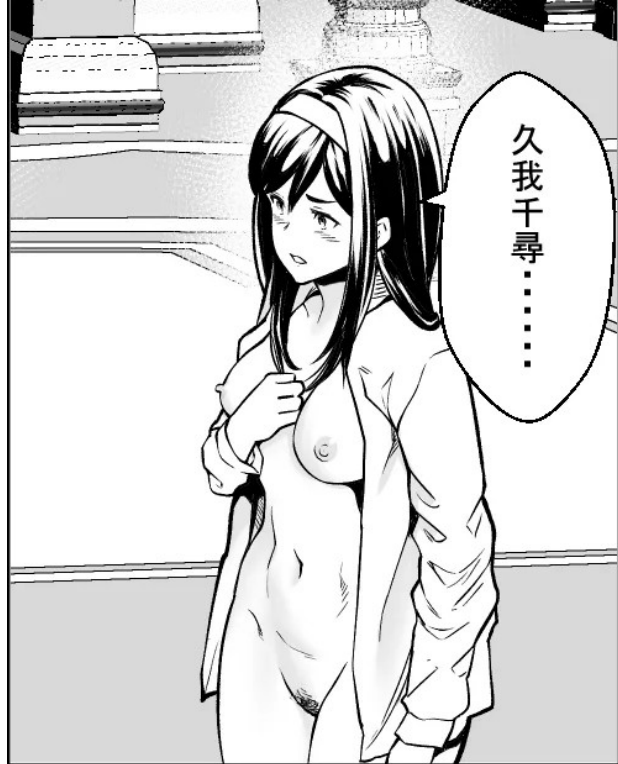
満たされた
かったからよ



家の為に
上辺だけを
取り繕う事だけを
教えられ育てられ

結果として
ガワだけの中身が空っぽの
存在に成り下がった

そんな私の
虚無を満たして欲しかった

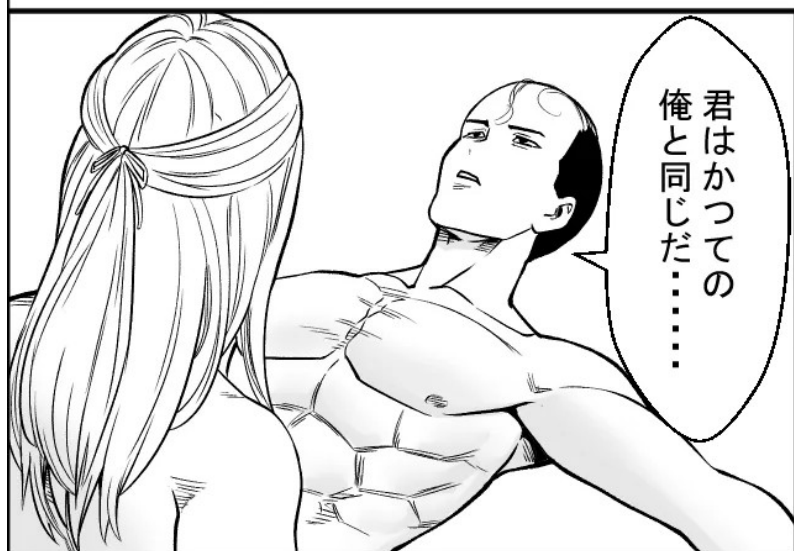


久我千尋……



でも何も感じなかった

そう私は
ブラックホールよ
決して満たされる事はない！



君はかつての
俺と同じだ……



あなたも
満たされない
思いを抱えて



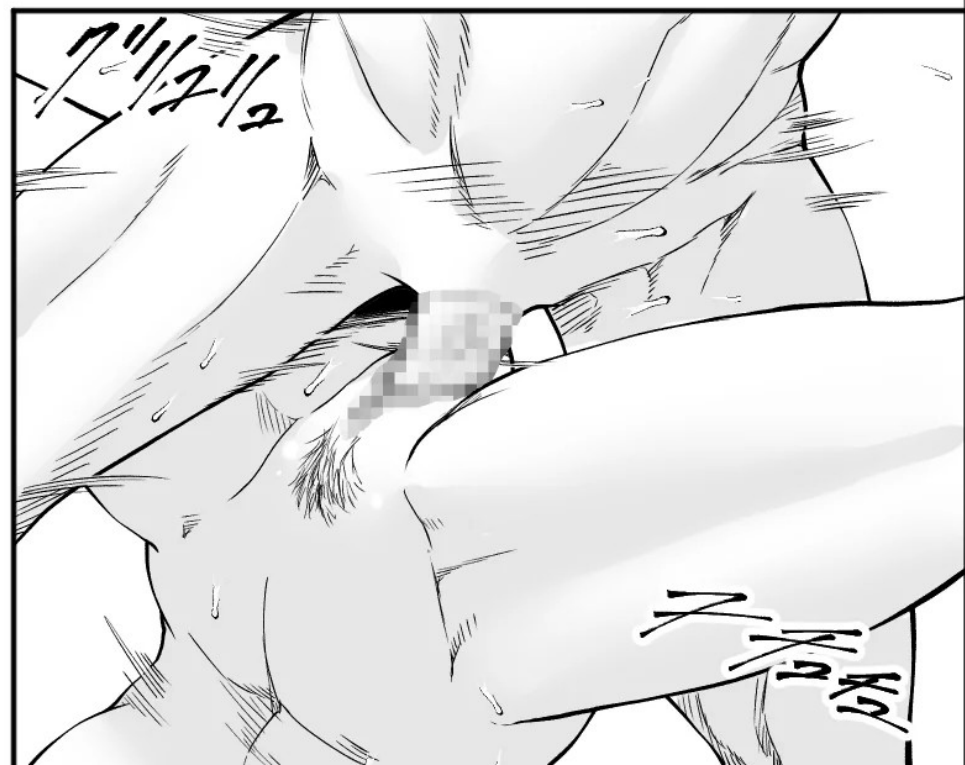
だが違った

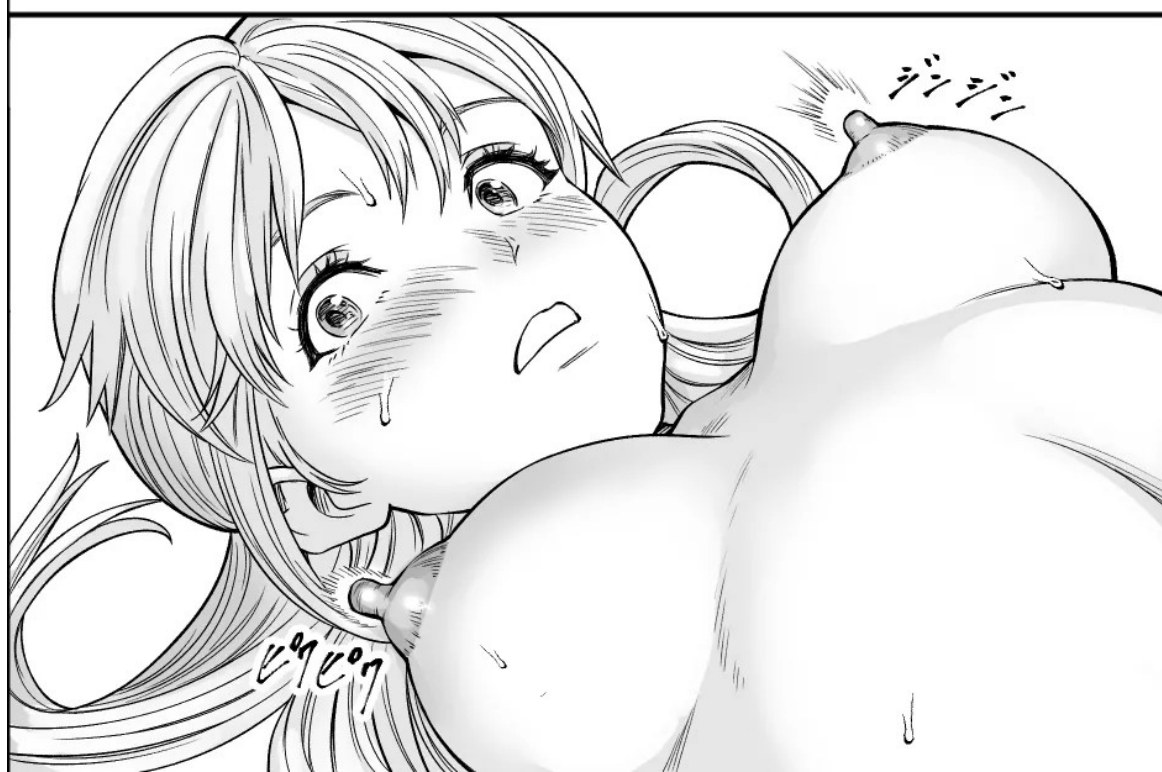


この内に開いた
大きな穴

それを
満たすために
摩天楼を
飢えた狼の様に彷徨った

勝利こそが
俺を満たしてくれると
思ったからだ







なんなの
この流れ込む

ビーン

ひ…
光!



なにこれ!

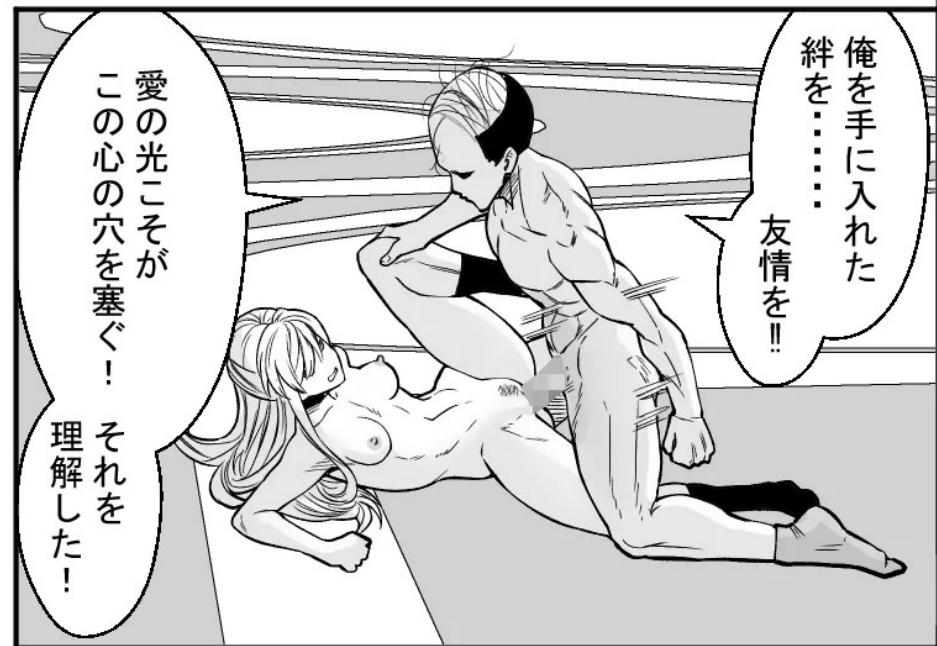
ビーン



ホッ

無用だ!
光など!

こんなもの



俺を手に入れた
絆を……

友情を!!

愛の光こそが
この心の穴を塞ぐ!

それを
理解した!



愛しているぞ
久我千尋……

オオ

この光こそ
虚無の闇を
照らす!



